

# 和福積

歌子部上八

|       |    |   |    |
|-------|----|---|----|
| 和書門類  |    |   |    |
| 二七三八二 | 九〇 | 三 | 一〇 |
| 號     | 函  | 架 | 冊  |

|       |    |   |     |
|-------|----|---|-----|
| 內閣文庫  |    |   | 和書類 |
| 二七三八二 | 一〇 | 七 |     |
| 號     | 冊  | 架 |     |

|      |          |
|------|----------|
| 內閣文庫 |          |
| 番號   | 和 27382  |
| 冊數   | 10 ( 8 ) |
| 函號   | 190 109  |

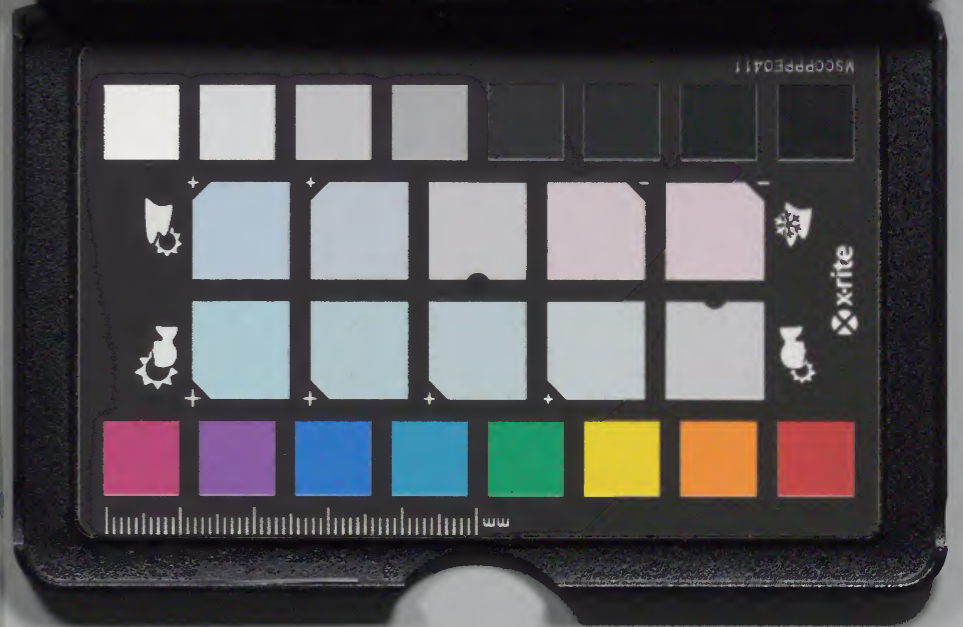


Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak





2575

倭論語卷第百録

祝氏部上

聖德太子

後少用

惠隱

智通

義成

義淵

玄昉

泰澄



聖寶

高僧淨人

定惠

智達

法截

道應

素性

寬靜

明治十二年

口入用語六



永觀

美提

慶後

室也

寂滄

慈訓

守敏

圓仁

圓珍

相應

行基

法進

良辨

鑑真

室海

行表

護命

常曉

寬忠

遍昭

行教

良源

十觀

寬室

時叙

餘慶

性室

行圓

明尊

性信

益信

淨截

仲筭

深觀

時信

源信

寬朝

教圓

仁海

源筭



行尊

西山

解脫

觀觀

德一

覺尋

俊惠

文覺

覺阿

信空

行觀

覺鏡

覺猷

尋禪

明遍

慈圓

巖秀

明菴

源空

宗西

良忍

貞慶

延朗

為威

行宣

自覺

高辨

明禪

俊宗

覺憲

俊蒞

能惠

道元

圭峯

顯性

敬佛

法圓

真深

寬孝



行 事 對 策 論 語 卷 八

行 事 對 策 論 語 卷 八

倭論語卷第八

親氏部上

聖德太子（孝）勅曰七星頂（天）よありと文（書）に書（き）るを約（約）

るうらひ五約（五）身（身）にさかちを。あまそを非（非）礼（礼）をさ

とんからん

又曰（又）うらづよ乃人を助（大）いかにんをすうまのハ人

乃飛（飛）をいまのむかなり。うらづ乃よの人氏教（教）一

かんとおりのものハ人乃飛（飛）を拵（拵）うととなり

又曰人乃まらひわさうひはもと種（大）子（子）かゆ（ゆ）き

子（子）乃怒（怒）らうとおんをの緒（緒）のさうさ（さ）う（さ）ひ



信力をもて  
 種子なるなり  
 又曰。もろく乃多あがまらるる乃たよ入る来り  
 又曰。吾神明乃解除をりく乃病をかたしおさ  
 免老をぬか乃をりかたなり。らせぬか男あ  
 さら茶なり。されを言系寂きあてをりく  
 法のは地可約可苦乃みかり。れまははは酒は是  
 良此是神是佛乃とあらなり。人乃由吾酒を  
 人乃と神地は。りく下。おらればをあらん。の

多のものよあみそりあをりて。日か月よ  
 かさ。のそ根乃酒よい。とあなり

倭國佛法元始也人王三十二代用明天皇第一皇  
 子号<sub>三</sub>既戸皇子母穴穗部間人皇女女二年元服  
 十九歳号<sub>八</sub>耳<sub>下</sub>誅守屋臣建天王寺推古亦

九年二月廿百化四十九歳

聖宝曰。如来乃教法ハ。嫡子<sub>ハ</sub>を没き。もは。魔<sub>ハ</sub>乃  
 小入事<sub>を</sub>知<sub>ル</sub>。戒法<sub>を</sub>より。一とあえん。のハ佛<sub>ハ</sub>  
 だ。か。り。も。ろ。く。の。知。り。も。せ。り。の。也。と。び。さ。う。い。を  
 ころれか。く。も。り。の。ハ。地。に。あ。り。そ。め。し



と此のときとてみと知るなり

大友皇子、淳葛野王子也。醍醐、山延喜元七

月六、不知行亦、観音應化下云

後小角曰、一箇浮提乃守護神に有、四神は四神は

空の語乃は、此の破戒乃あ、くつりも、

くも、生れ乃縁と、とれんも、造罪の答と

いびくとなり

舒明天皇六年正月朔生

弓削浄入曰、くろく乃魔力乃く、千も、時はさくえ

小きりも、世の罪もく、あて、人志も、よりのなり

業の蔭す、六夜を、約と、く、時、大い、ぬく、を、ゆ、く、も、是

魔乃、あ、く、佛の、室、ひ、なり、戒、依、た、を、祈、ぐ、り、ん

もの、高、ま、は、乃、あ、る、り、り、と、は、ま、なり

天智天皇御子也、大禅师任、太政大臣、法皇位也

惠隱曰、布施乃、約、二、言、乃、下、は、く、あ、く、人の、同、り、と、す

あ、は、よ、く、の、布、施、乃、は、なり

乃、胎、回、は、く、の、時、の、禁、忌、の、事、あ、り、お、い、言、は、終、す

る、を、法、律、乃、事、と、は、ら、の、なり

定惠曰、世、能、に、知、く、を、し、物、多、く、小、文、字、言、る

小、趣、去、て、古、今、之、哲、乃、書、を、み、あ、人の、佛、芥、也







泰澄曰。昔猥八回向乃一念にありて。于若ある法  
家。或時ハ云々。一志  
寛静曰。唯終乃時。佛乃おぬを。おらるる。か  
ら念。よ。あ。て。生。成。ひ。け。を。な。り。と。

嵯峨天皇才六宮定親王孫從五位上肥前守

淳子也東寺長者權僧正

永觀曰。信人がわや。ん。と。佛を。徳念。と。る。も。の。以  
よ。念。ほ。一。と。と。太。刀。と。よ。う。と。あ。る。ま。の。信。が。り。出。家  
か。り。と。と。ん。と。佛を。念。せ。と。は。の。の。ハ。衣。を。と。る。な。り  
ら。大。信。が。り。と。佛ハ。念。成。と。る。所。生。ハ。体。と。と。は。な。り。

經基曰。と。ん。く。乃。は。と。念。經。事。あ。り。と。念。の。と。と。又

又。曰。戒。ハ。方。法。乃。師。が。り。三。世。の。諸。佛。と。是。に。あ。る。と。

又。曰。戒。ハ。方。法。乃。師。が。り。三。世。の。諸。佛。と。是。に。あ。る。と。

又。曰。戒。ハ。方。法。乃。師。が。り。三。世。の。諸。佛。と。是。に。あ。る。と。

又。曰。戒。ハ。方。法。乃。師。が。り。三。世。の。諸。佛。と。是。に。あ。る。と。

又。曰。戒。ハ。方。法。乃。師。が。り。三。世。の。諸。佛。と。是。に。あ。る。と。

又。曰。戒。ハ。方。法。乃。師。が。り。三。世。の。諸。佛。と。是。に。あ。る。と。

又。曰。戒。ハ。方。法。乃。師。が。り。三。世。の。諸。佛。と。是。に。あ。る。と。

又。曰。戒。ハ。方。法。乃。師。が。り。三。世。の。諸。佛。と。是。に。あ。る。と。

又。曰。戒。ハ。方。法。乃。師。が。り。三。世。の。諸。佛。と。是。に。あ。る。と。







らんと。此作もようしと申されし。寂沔の依り  
は衣食乃申はるを句し。乃申は衣食不  
来也。此はゆきび道公をいあり。衣食の三事  
をのづゝある。来世及ひ當山をとらへ。其妙  
をかり信をよといふ。若實甚し。ある。今  
ぞ乃時吾信の申ふま。いりて法乃能とくけん  
のなり。わらふ乃信。そのぬり。宗家あり。世に法を  
とらへ。そのふの景教なり。世に法をかんぬ。今あり  
たまり。くむ。此はゆき。若利のさる。を法ゆき。の  
なり。

或時寂澄未代乃信生持初のいをよる。其大

傳教大師比春山法苑のい

おのほくら信の持戒乃信は信とかり信より信不

又みし乃信は信より信より信より信より

とらへくと。此はゆき。今とらへくと。今とらへくと。今とらへくと。

桓武天皇御飯依僧比春山因基号傳教大師

空海曰。夫吾神明。内宮外宮。志ありて。やう。一。今

日域を海より。金宗胎家と志ありて。西。月夜を

ひ。さる。公。珠。中。位。乃。聖。名。を。和。人。則。當。社。の。所。



属乃春秋なり

又曰支密教乃平素ハ公法として公法にして文字ハ  
ハ是瓦礫文字ハ是糟粕なり

又曰佛祖不傳乃妙をばる人ハ一代乃法を説くを  
知者よりあはひ

又曰公をとりて公法志の言をとりて言を

或時人る不毛公法ハ免は

或一と一ハ毎のしひもん勢のかり人乃あまを

嵯峨天皇御敎依僧高野開基号弘法大

師

善訓曰法を修する人解急あまた法を又をまむ

かり是にゆりて常任ふ道乃約をまらむ

約表曰千軍万句を満せんより一句をまらむハ

あつとささらさゆもの文字法か多人みるハ不益文

か益あつ和と知つものハ是一句を并ふ方也

守敏曰とらん人法を修して教を成らむハ

園中に宝珠をゆりかあらし甚ま言乃燈をさす

是を求むれば切を修くし東地のありむらうか

そのなりだといふ一代乃説法を空に説く言



乃乃介打るぐくひ智恵秀あるものハ却る仏の  
 を一はまそくより多かる年一智恵こつたに在智の  
 良なるハ仏智世智と云ふ能智乃良なり世は凡智此  
 良乃多かるて一可なるあく一在智結言は云らん  
 乃乃くめして約後者対は是をあひそたて終を  
 可なる能なるあひくらくに消えくものなり  
 護命曰形像ハ方法乃出る終根なり是三世法  
 佛ハ在智なり云云ハ凡智法あらんや方法の  
 種子は持りくらく終行るく愚成なりゆん事  
 せしむる乃山は入るくらく終てかろがぶと

あらまはせ下く  
 秀仁曰一云はせりか一をまは三とをふあさくらの  
 己ハ云はせりか一をまは三とをふあさくらの  
 法佛をみるふ戒乃人々三世法佛と云ふ  
 一ハ云はせりか一をまは三とをふあさくらの  
 戒

仁明天皇御敏依僧傳教大師弟子号慈光  
 大師

常曉曰くろくの家生酒肉と飯とろくを戒とお  
 一人ハ佛を失ふるハ戒の阿くくを一かふ戒



あぐハ佛公ちんニことをさうらる。三世乃流えせ法そ信ち唯い一人の戒を  
しん。あら為乃飯とらる。半ととらん  
香ん珠曰。らんく乃飛を約ともを無をからんよいまん  
乃飛を淨らあらんぬ。人をのはとらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。  
うんよは飛をらんふ生のはとらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。  
てを心乃らんぬ半を知まし。乃を安知ハいらり  
からく。新ハ志のを安し。戒よらん志てふ生あらん  
半ハ安知めてりからん。

文德清和御敏依僧後三井寺用山号智證師

寛忠曰。乃く人を公ならず。時を諸法の妙を以て  
つと志もく。新て感應る。乃く人を公ならず。時を諸法の妙を以て  
あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。  
一及佛をむく。乃く人を公ならず。時を諸法の妙を以て  
むく。乃く人を公ならず。時を諸法の妙を以て

宇多天皇亦五皇子教因親王御子也  
真海曰。乃く人を公ならず。時を諸法の妙を以て  
つと志もく。新て感應る。乃く人を公ならず。時を諸法の妙を以て  
あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。  
相應曰。乃く人を公ならず。時を諸法の妙を以て  
あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。あらんぬ。











天台山修りの吾山は法を三傳承山三友乃其地子  
 ありけりと信がありゆ道同家山子人されんら  
 道の廻りうん生離乃乃成成而來えんはは  
 終乃とありあり來ん誰人乃一系乃乃守護り  
 ておそしゆとま成うくらんははの守護り  
 終乃らんや

又同家山乃乃法を承り乃一字成書てりの三友服乃守  
 乃一家ともて一乃乃乃ひら成りくる乃乃

宇多帝落腹之御子也江列浅井郡賴育密  
 而号木津氏子号慈惠大師或元三大師

四大師外大師号唯魚之山明押而以号大師併  
 系融帝密勅

淨慈曰一公乃飯を磨て磨を乃大味を攻よ一飯よ  
 退治をすしきり乃一念成然ハ良成能なり一念成  
 能ハ良成能なり修行者と号し一公ありて文に云乃  
 乃こらぬ歟の病くもろく乃磨り及一切乃事を成  
 物と下

予觀曰三家いあしくをうきてあくと佛語ハ文り  
 うとらりやおもひて不信乃おとらん時ハ不信ハ退  
 色ハ少教かおとれハ一切乃事成就をハひそととらハ







神女りうの海乃のるるれいさの神津信那  
御遊しわそ

去乃秋津浪のるるれいさの神津信那のるる  
寛空曰。そとるる人乃るるれいさの神津信那のるる  
乃一也。と外乃るるれいさの神津信那のるる  
そとるるれいさの神津信那のるるれいさの神津信那  
深寛曰。高貴の一人の物と施さぬ人ハ。来來貧窮  
乃後氏より人なり。施さぬ人ハ。福徳乃後をばく。富  
貴ありて貧窮乃そとるるれいさの神津信那のるる  
花山院亦三皇子也。号禅林寺石山寺座主也。

時叙曰。人ハ。かちて後世をたると。納り人。罷と。後  
子人。そ。おれと。信申。小。孫。あ。く。と。つ。人。が。わ。あ。こ  
り。け。か。と。信。海。よ。と。と。さ。ら。ん。わ。さ。さ。さ。く。の。る。ま。さ。乃  
み。ら。な。り。と。と。人。乃。る。あ。は。れ。の。る。ま。さ。と。さ。ら。ん。わ。さ。さ。く。の。る。ま。さ。乃  
ま。ら。ん。毎。日。水。子。ま。さ。ら。れ。と。と。お。り。ひ。の。あ。く。に。水  
生。と。り。人。が。一。福。徳。ハ。そ。の。ま。さ。く。性。海。の。底。ハ。あ。り。外  
よ。水。ハ。子。劫。と。終。く。と。あ。る。一。が。り。ん

宇多帝之孫雅信の五男也。遁世住大原常  
多門天来住勝林院系劍  
海信曰。信の常は肉を食するをよみ。今をのり。對



一て志をらく物に付毎に害乃公多し戒  
西一氣傳ハ一言也殺生乃言多し此其めん  
仰乃るハ一氣傳ハ一言也殺生乃言多し此其めん  
惣約志らく事なり

右大信雅信ハ亦八子也沙門許生車事從是

始也

餘慶曰惣と云ハ三毒なり吾と云ハ三毒なり  
つば三乃とのハ独志多し人志あり依り人志  
まよふなり

源信曰衣食住乃三親をみる人志がなり

伝をゆる必その名曰海ハありつるものなり  
源信得道乃後名利の二字を捨つて  
まるるなり常に人志必あり捨つてハ  
そじろされハ内證なる志ありなり内明  
して外のそじろありなり

慈惠大師亦子号慈心僧都是也

性空曰一人乃像を倍養し一佛の破壊と違つて  
乃經文の廟字と書あり石佛乃去中に埋ま  
るなり出し一言乃は像ありあり小字なり  
と書あり乃石佛なり



書神治卷乃切法をりき

寛朝曰を末ぬりの法よりりかごとくは法もの  
法を能くしん空法乃後者あまのひき多し法の  
能くしん世の道なり。實に知ぬものか乃何よ千  
其の束やと一物を束かくし中よりるを

宇多天皇末八皇子教実親王才四子也号廣

沃僧正東寺一長者世稱廣沃密流

行園曰を末乃在末よ入るあくハ則公珠ひり明は

て常以世事をてらひ下

教常曰をりく乃あきすう中なる道。自能くしん

轉乃弘解入るをゆも。信然とて法のみ寂妙

用恒沙をり

明き曰行者をのち氏救て後人を救す人を先

救すハ其薩乃をひ廻なるとも。末世乃傳へる

法をの道たあかぬま人を救んてて是の事

法入る多し一法を修せん氣のあにふるなり

仁海曰一曰一教乃持戒を現世の法能なるを

乃作てまの常恒持戒乃人の戒を稱よめるや

あひの人をなむやまのあひむしん世の傳を

持戒堅固乃傳を正徳ありて大衆の法同とあら







小一条院之子從三位基平四男也号平  
業院倭驗名徳人云

仍觀曰。毎日念ふは乃のりるん安毎よ一公念仏して  
今そは世はくさりぬとおもひて信を肝に結きて  
死てみるる。あは毎日執心志ぬまはいつとなく  
いし世乃善念をそまは徳乃美治よなり矣云  
らぶかみ

三條院第一皇子小条院中七子也号錦織信

正任三井寺

西山曰。人念佛にて悔後不佛よなりやふをくし一

切乃善言及経卷がらびは宝号よ一公は唱ぬその  
高神くは佛なりまよひておよ来て功をほし  
多。諸公乃善言あそ必退博乃おらるはけしは  
り成あぬけなかりくお来てるをいしひお  
人もはよりおよあし唯はしひるはるすと  
あるふ

覺鑊曰。元大日覺王乃内院とさるり。正号は大日  
遍照る事とわさるるなるは初座外乃高神はこ  
志と邪治はるまのまを何の信ハお信よの先  
哲よをさるされし。男乃あさぬに在家乃人なりと



我あさましき事乃多しげあさましきゆゑ  
 まのけり信乃信家日向く知戒のふりまひにけ  
 とまぬとの虎此輩とて大乃公ありあつて志代の  
 出家へのあひのく地獄はあつたりする今に在家の  
 中におりかゝるに振舞も公もあつて世に多し法  
 滅乃世よ吾をよ毀く一切の生とみらむんとお  
 るにいま後定乃天後よまをるるを屋とるよの世  
 解脱回信のるよ入んとせよあつての信命相しむ  
 あまふらひきまるとの信乃我乃場は毀く命とわ  
 めるにいまかあつて信病乃あつたりあつてのあり

かのく臆病乃振舞あらん力乃我の場は  
 出まるとの益なり天信乃るよ入まのどの  
 をあひの信命とせよあつての信のものをいそ  
 信乃るるとの信あんとをもとわとせよあつて  
 するも

少納言信西入道之孫也号負慶三會

已誦

覺猷曰信乃からん力乃末世の法の形見とせよ  
 るに信のこゝに信あつてあつてあつてあつて  
 を信とせよし信のこゝに信あつてあつてあつてあつて











ありおむらうひのそまふへまのりあのかん外の  
 佛ありとまふがあらむと法成統とせりハ成統  
 かりむらうとまふとまふのあまのりかたのり字又  
 して一家の奥言とまふとせりハかたのり  
 りむらうあうんとせりハかたのりなり

園白道隆の孫左馬頭忠経朝臣男也号は定心房

天台座主或号金剛壽院

急名言といからん言人をも一乃夫のまのりなり  
 式名ありとまふとせりハかたのりなり  
 志ゆる今一とまふとせりハかたのりなり

出ぬまといまのりなるなりとせりハかたのりなり  
 つからん

今より乃まのりなるなりとせりハかたのりなり

法性寺園白忠通の五男天台座主謚曰は慈鎮聖

俊恵曰は乃教と名を賜乃外ありやうとせりハかたのりなり

といつらりの物語なりとせりハかたのりなり

ありとせりハかたのりなり

ありとせりハかたのりなり

ありとせりハかたのりなり

ありとせりハかたのりなり











やと敬一ういよ人曰曰のさるぬらんやと念仏  
 一たまのしとせやとさるぬらんやと念仏  
 又曰昔人乃をのまきとてのう智恵いよと  
 てらうき極末法をす。うやと念仏は世ある  
 をく新し方とるひ事なり。あさ海一とて事なり  
 いうたうこの一みるさそはば夏の世ひ。夏乃こ  
 しと乃智恵をさうまといひけらう。年未乃智  
 恵といとんハ。ゆの夏をさうさうひてか余  
 をと折捨して後乃世をねくさる。ゆらんを  
 うれらんをさうあ乃かたとあひしてたうさう

ゆとらびらきをん事ううゆ

本朝淨土同基法然上人是也夢中法音守大  
 師授極樂往生妙旨

信室曰か余をともうらとて。一公をともしと  
 ちくみこのおほをせりひなりて。ゆは器器  
 を唱ふこの必要是法ゆらひなり。人邦なり  
 公乃らうとてか。ゆのしとてなり。事一といひなり  
 ゆにゆゆく信をるん。あさまのしとてなり

守宮大夫行隆朝臣八男也法然上人亦其弟也  
 兼西曰佛見法見ゆおゆおゆゆ



胸中の一物なく廓落虚明にして三世十方を  
 遍照して是の如く一法として人主を以てして  
 乃ち一生成乃ち口を以てして幼穉を以てして  
 之を以てして教を授けんと是れ此海の中よる落念  
 佛法世法若樂を以てして權殺して一法として  
 りてして是れ大なるなりとわかれりてして之れ  
 也此は情識乃ち年なりそ此五支用を以て  
 して是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ  
 して吾人利智を以てして信を以てして正法を以てして  
 之れは是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ

源兼又曰法花をたるといふは實にお乃體固  
 果乃宗妙意の用と能解不志を悉辱乃衣  
 を以てして諸法宣此座を以てして大慈愍乃宗  
 入之のよ海を以てして法花の三別を以てして  
 良慈回念佛三昧に入ぬ是の如く乃は  
 うゆふ業運し諸天菩薩神毎の以てして護  
 ぐふが如くはなりと念仏を以てして  
 之のよけきこふを以てしてわくらん  
 うとてなりたるなりはなりと  
 せんともあれりなりはなりと三途のなりと







事新切をくくりをしきりにはと物取の  
妙方人あつて公あらんとの恐るる  
延朗曰至深乃一物也  
子と一物にして世に  
念く又法界なり

八幡太郎義家朝臣孫孫義信朝臣田邊  
松尾上人信若義実希有通者効驗無双  
也

後生をばつて  
下も公の志をく  
おふ志を  
ふあまは  
ておと  
般名  
おりの  
ハ後世  
同来











吾物あるものそのあり家物人の物なり  
 是の法家さりとらるるまゝおのり物なるの如  
 ちと一念ハテ此れ其くはつと世のいふ事には  
 なるまゝなり  
 平泰時世の形次第  
 小上人のいふく三途は海くはれむ  
 みるは世の形次第  
 ともわてはよき世乃人の形次第  
 よのりはつとらるる  
 又其職まつてはつとらるる可なり  
 中人教ある人其の形次第一切を  
 念ておのりその形の中はつとらるる  
 いひおん去いと更いなる中は及ぶ可なり  
 おくして時とん又其可なり  
 及くして事はつとらるる平泰公  
 そげと御物つとらるる切く仕とらるる  
 よれつとらるるやうに親津の形次第  
 色物も所用の形次第  
 今く又はつとらるる子孫の形次第  
 ゆくもつとらるるつとらるる

中人教ある人其の形次第一切を  
 念ておのりその形の中はつとらるる  
 いひおん去いと更いなる中は及ぶ可なり  
 おくして時とん又其可なり  
 及くして事はつとらるる平泰公  
 そげと御物つとらるる切く仕とらるる  
 よれつとらるるやうに親津の形次第  
 色物も所用の形次第  
 今く又はつとらるる子孫の形次第  
 ゆくもつとらるるつとらるる







まゝおほゆる半ハ。大座もあなうすれまの  
しりの妙り香を空高くぬく感一作けら  
わがたり

又曰。人々もく功徳をんりハ。悪をそあうまは  
なりし志を平  
法名曰。心身を地りあこと控し人終り。控は

し。この境よ入るあり。中ハ朽果へる男をあり  
後。房曰。反世也。りんものいんぬあ一を指  
ま。まきなり。ぬん人ん世へま。りり何れ人よ

ても。奇。悪をあひす世ハ。物よつづつとくそ乃  
人あ。いんや後世をいよりきく。世をいんく  
ぬん人乃あう。し。姑外ハ。何れしを指もの  
一。あせ

又曰。物ハ。す。なうそして控うま。か。ひ。さ。あ。一  
粉乃。あ。り。物。り。た。り。大。伽。と。り。ま。る。ん。と。指。も  
ぬん。た。り。寸。小。石。小。木。と。も。共。づ。つ。ひ。ま。づ。ら。る  
を。ま。つ。あ。時。ハ。大。義。ハ。あ。ぬ。物。よ。ら。り。ゆ。ら

新氏部上終



